

平成 27 年度県立高等学校・県立中等教育学校における

# 手話に関する 取組事例集



高校教育課  
平成 27 年 11 月

## はじめに

平成 27 年 4 月 1 日に神奈川県手話言語条例が施行されました。

この条例は、ろう者とろう者以外の者が、お互いの人権を尊重して意思疎通を行いながら共生することのできる地域社会を実現するため、手話の普及等に関する基本理念を定め、県の責務や県民、事業者の役割を明らかにし、並びに手話の普及に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るために定められています。そして、県の責務として手話の普及並びに、手話に関する教育及び学習の振興等を行い、手話を使用しやすい環境を整備すること、また、県民の役割として、手話に対する理解を深めるよう、努めることが求められています。

こうした状況を踏まえ、県教育委員会や各学校において、手話を身近なものとし、全ての生徒や教職員が手話に興味・関心を持ち、手話に対する理解を深める取組を充実させていく必要があります。

本事例集は、平成 26 年度の取組を中心に資料を提供していただいた学校の協力の基に作成しております。これまでも多くの学校が授業や部活動等において、様々な活動を通して手話に取り組む機会を設けております。

今後、本事例集を参考に、各学校の実態に応じて手話に関する積極的な取組を検討くださるようお願いいたします。



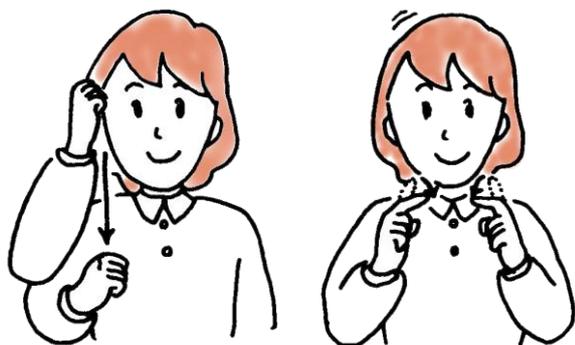
# もくじ

➤	手話のあいさつ	1
◇	授業での取組	
1	横浜南陵高等学校 福祉・「健康福祉基礎」	2
2	横浜南陵高等学校「総合的な学習の時間」	2
3	横浜旭陵高等学校 福祉・「社会福祉基礎」	3
4	金沢総合高等学校 福祉・「コミュニケーション技術」	3
5	市ケ尾高等学校 家庭・「家庭基礎」	4
6	川崎高等学校 福祉・「社会福祉基礎」	4
7	大師高等学校 福祉・「コミュニケーション技術」	5
8	横須賀明光高等学校 福祉・「コミュニケーション技術」	5
9	高浜高等学校 福祉・「社会福祉基礎」	6
10	高浜高等学校 福祉・「コミュニケーション技術」	6
11	平塚湘風高等学校 福祉・「社会福祉基礎」「児童福祉」	7
12	藤沢清流高等学校 福祉・「社会福祉援助技術」	7
13	藤沢総合高等学校 福祉・「社会福祉基礎」	8
14	鶴嶺高等学校「総合的な学習の時間」	8
15	相模原青陵高等学校 家庭（共通教科）・「家庭総合」	9
16	秦野総合高等学校 福祉・「社会福祉基礎」	9
17	秦野総合高等学校（定時制） 福祉・「社会福祉基礎」	10
18	綾瀬西高等学校 福祉・「社会福祉基礎」「コミュニケーション技術」「介護総合演習」	10
19	大磯高等学校「総合的な学習の時間」	11
20	大井高等学校 福祉・「社会福祉基礎」	11
21	大井高等学校 福祉・「生活支援技術」	12
22	吉田島総合高等学校 福祉・「社会福祉基礎」	12
23	愛川高等学校 福祉・「社会福祉基礎」	13
◇	部活動での取組	
1	横浜南陵高等学校 社会福祉部	13
2	二俣川看護福祉高等学校 手話部	14
3	川崎高等学校 ボランティア部	14
4	住吉高等学校 チアリーダー部	15
5	高浜高等学校 手話コミュニケーション部	15
6	湘南台高等学校 ボランティア部	16
7	秦野総合高等学校 ボランティアクラブ	16
8	大井高等学校 ボランティア部	17
◇	学校行事での取組	
1	横浜緑園総合高等学校	17
◇	その他	
1	川崎高等学校 公開セミナー	18
2	深沢高等学校 神奈川県聴覚障害者福祉センター見学	18
3	西湘高等学校 手話交流会	19



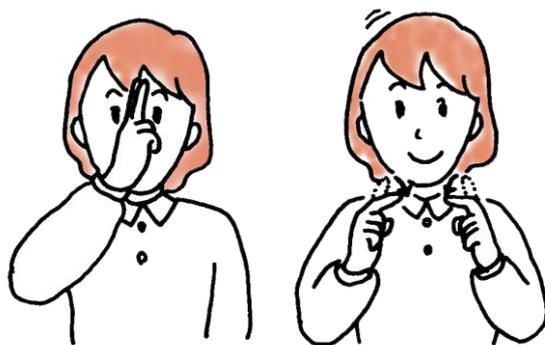
# 手話のあいさつ

おはよう



「朝」という手話（右手のこぶしを下に下ろす）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

こんにちは



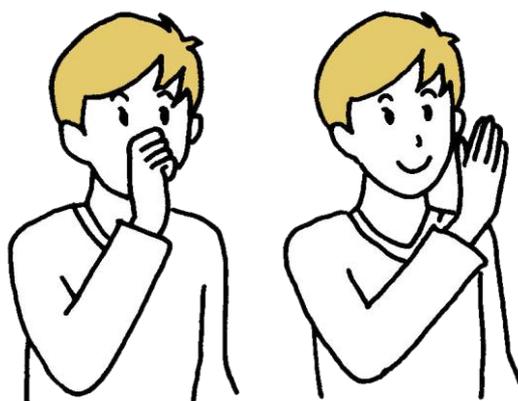
「昼」という手話（指で12時を表す）と「あいさつ」という手話（人差し指を折り曲げる）をあわせます。

ありがとう



左手の手のひらは下向き、右手で一回切るようにします。

よろしくおねがいします



右手のにぎりこぶしを鼻にあて、軽く前に出して、手を開き、前に少し出します。

単元（題材）目標：手話・点字などのコミュニケーション方法の基礎を習得することにより、「福祉マインド」を育てる。

1 実施時期 年間8時間

2 対象生徒 1学年 健康福祉コース 39名

3 指導者（教諭・外部講師等） 外部講師（手話通訳士）

4 実施内容

福祉コミュニケーションの中で手話通訳士の方から、手話による挨拶、自己紹介、簡単な会話までを教えていただき、コミュニケーションの方法としての手話を学習した。

5 学習評価

コミュニケーション方法としての手話の基礎を身に付けているか。

6 その他 <成果>

手話・点字などのコミュニケーション方法の基礎を習得することにより、福祉コミュニケーションについての興味・関心を高めることができた。

単元（題材）目標：福祉に関する知識や社会貢献に対する理解を深める。

1 実施時期 9月以降 発表は年1回

2 対象生徒 1学年 280名

3 指導者（教諭・外部講師等） 各クラス担任、学年団、社会福祉部の協力を得て実施。

4 実施内容

「福祉教育」をテーマとして取り上げ、学年の生徒全員で、「校歌」を「手話ソング」として取り組み、発表する。

5 学習評価

キャリア学習の分野とあわせて、総合的に評価を行う。

6 その他 <成果>

手話ソングの体験を通して、福祉に関する理解を深め、本校の学校目標でもある「福祉マインド」の育成を進めることができた。



単元（題材）目標：社会福祉に関する、基礎的な知識の習得の一つとして、簡単な手話会話ができるようにする。

- 1 **実施時期** 年間4回
- 2 **対象生徒** 2、3学年選択者 57名
- 3 **指導者（教諭・外部講師等）** 教科担当者
- 4 **実施内容**
  - ・授業の中で、手話による挨拶、自己紹介について学ぶ。
  - ・授業の導入の時間を使い、手話、指文字の学習を行う。
- 5 **学習評価**

簡単な手話による会話ができる。
- 6 **その他 <成果>**

簡単な手話による会話を体験することができた。

単元（題材）目標：聴覚障害者とのコミュニケーションに関する基礎的な知識と技術、特に福祉技術として、初歩的な手話を習得し、介護福祉援助活動において活用できるようにする。

- 1 **実施時期** 年間を通じて20時間程度
- 2 **対象生徒** 2、3年次生選択者 20名
- 3 **指導者（教諭・外部講師等）**

教諭と外部講師（ろう者及び手話通訳士2名）によるチームティーチング
- 4 **実施内容**

講師から日常の挨拶を始めとする、基本的な表現について教えていただいた。
- 5 **学習評価**

手話の技術を身に付け、積極的に表現しようとする。  
手話に関する基礎的な知識を身に付けている。  
聴覚障害者の立場に立った、適切な表現ができる。
- 6 **その他 <成果>**

聴覚障害者についての基本的な理解をするとともに、コミュニケーションの手段である手話を学ぶことで、積極的に手話でのコミュニケーションを図るようになった。今後は、表現の練習を繰り返し、しっかりとした技術を習得させることで、実際の生活の場面で手話を活用できるようにさせたい。

単元（題材）目標：手話を学習することを通して、ともに支えあって生活することの重要性について理解し、福祉に関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付ける。

1 実施時期 年間1回

2 対象生徒 2学年 200名

3 指導者（教諭・外部講師等） 教科担当者

4 実施内容

手話による自己紹介、簡単なあいさつ、歌の練習

5 学習評価

手話に関しての興味や、積極的に学ぼうとするなど、福祉に関する関心を持つ。

手話を用いて、自己紹介や簡単なあいさつをするなど、手話を通して様々な人と、豊かにコミュニケーションを図ることができる。

6 その他 <成果>

簡単な手話を体験することができた。

単元（題材）目標：初歩的な手話を学び、聴覚障害者に対する理解を深めるとともに、援助活動の在り方について考える。

1 実施時期 年間1時間

2 対象生徒 全日制2、3年生選択者・定時制2～4年生選択者 28名

3 指導者（教諭・外部講師等） 聴覚障害当事者

4 実施内容

- ・「おぼえて得する手話単語」を使用し、身近な表現を学ぶ。
- ・「新しい手話 2010」を使用し、政治社会、生活その他、カタカナ語、災害関連のトピックに関する手話を学ぶ。

5 学習評価

- 「関心・意欲・態度」 聴覚障害者の生活環境に関する課題に関心を持ち、その改善向上に向けて、主体的に取り組もうとしている。
- 「思考・判断・表現」 聴覚障害者の抱える課題について、思考を深めようとしている。
- 「知識・理解」 手話について、その意義を理解している。

6 その他 <成果>

身近な手話を始めとし、「裁判員制度」や「待機児童」に相当する手話、病院で使う手話など専門的な内容の手話を学ぶことができた。

## 大師高等学校 福祉・「コミュニケーション技術」

単元（題材）目標：簡単な日常会話程度の手話表現を学び、聴覚障害者とのコミュニケーション能力を身に付ける。聴覚障害者の生活を知り、理解を深める。

1 実施時期 週2時間

2 対象生徒 2、3学年選択者 30名

3 指導者（教諭・外部講師等） 教科担当者（常勤職員1名、非常勤講師2名）

4 実施内容

自己紹介や簡単な日常会話程度の手話表現を学び、聴覚障害者とのコミュニケーション能力を身に付ける。聴覚障害者との交流を通して、聴覚障害者の生活を知り、理解を深める。

5 学習評価

○聴覚障害者とのコミュニケーションについて思考しながら、工夫してコミュニケーションを図っている。

○手話により意思を相手に伝達でき、手話を読み取れる技術を身に付けている。

6 その他 <成果>

聴覚障害者との交流を通して、聴覚障害者の生活を知り、理解を深めることができた。

## 横須賀明光高等学校 福祉・「コミュニケーション技術」

単元（題材）目標：「聴覚障害者への支援技術」という単元の中で、コミュニケーションの一つである、手話による簡単な会話を身に付けるとともに、聴覚障害者への理解を深める。

1 実施時期 1年間のうち6時間

2 対象生徒 1年次生 78人

3 指導者（教諭・外部講師等） 本校職員

4 実施内容

- ・聴覚障害者の理解（座学）
- ・指文字の学習
- ・自己紹介や挨拶、よく使用される感情表現などの学習

5 学習評価

- 「関心・意欲・態度」 授業の取組状況、授業後の振り返りシート
- 「思考・判断・表現」 授業内の行動観察（ペアワーク等）
- 「技能」 （特に設定なし）
- 「知識・理解」 定期テストにおいて手話表現を出題

6 その他 <成果>

生徒は、手話により聴覚障害者とのコミュニケーションの幅が広がることを実感し、意欲的に授業に取り組んでいた。また、聴覚障害者の理解を深めるため、手話の授業に先立ち座学を実施したことで、手話表現を覚えるだけでなく他者理解が深まった様子がうかがえた。

今回は実施しなかったが、今後実技テストの導入を検討したい。

単元（題材）目標：コミュニケーションの手段には、さまざまなものがあり、その中の一つとして、手話があることを理解させ、信頼関係構築のためにはコミュニケーションが必要であることも理解させる。

1 実施時期 年間を通じて断続的に5時間

2 対象生徒 1学年福祉教養コース 38名

3 指導者（教諭・外部講師等） 福祉科教諭

4 実施内容

手話に関するDVDを視聴し、手話のあいさつ、自己紹介についての実践を通して学習した。

5 学習評価

定期テスト、グループワークの振り返り、交流会など

6 その他 <成果>

福祉に興味・関心がある生徒が、手話の学習に取り組むことにより、手話の技術をもっと向上させたいと、次年度の手話の授業を期待する生徒が多かった。

単元（題材）目標：聴覚障害のある人のコミュニケーションの種類について理解させる。  
コミュニケーションを図る際の、留意する点を理解させる。  
聴覚障害のある人が生活場面で困ること、支援が必要な点などを考えさせる。

1 実施時期 年間を通じて35時間

2 対象生徒 2学年福祉教養コース 38名、3学年福祉教養コース 38名

3 指導者（教諭・外部講師等） 福祉科教諭2名・非常勤講師（ろう者の方・手話通訳士）

4 実施内容

聴覚障害者への支援についてや、あいさつ、自己紹介、状況説明に関する手話表現について、実践を通して学習した。

5 学習評価

小テスト（実技テスト）、定期テスト、交流会など

6 その他 <成果>

学年や生徒によって、興味・関心の差があり、指導内容方法が必要だと感じたが、3年生は、2年間の授業により手話の技術が向上した。また、手話の技術とともに、ろう者の文化にも興味を持ち、聴覚障害についての理解が深まった。

単元（題材）目標：簡単な手話会話ができるようにする。

- 1 **実施時期** 年間2時間（事前学習として、手話体験オリエンテーションを3時間実施）
- 2 **対象生徒** 「社会福祉基礎」選択者 85名 「児童福祉」選択者 14名
- 3 **指導者（教諭・外部講師等）** 社会福祉協議会ボランティア（聴覚障害者協会）
- 4 **実施内容**

（参考）教材 URL

[http://www.heartfulpower.jp/syuwa\\_hanasou/kentei/g5/index.html](http://www.heartfulpower.jp/syuwa_hanasou/kentei/g5/index.html)

「ハートフルパワー～手話で日本を楽しくするタレント事務所～涼子とくまぶうの手話で話そう！シ  
ュールなショートコントで手話検定単語を覚えよう!!手話検定5級の手話」

- 5 **学習評価**

簡単な手話による会話ができる。

- 6 **その他 <成果>**

簡単な手話での会話を体験することができた。

単元（題材）目標：＜耳が不自由な方と話そう＞

トータルコミュニケーションとして、手話について考え、手話が分からなくても伝え合う工夫をする。

- 1 **実施時期** 年間6時間
- 2 **対象生徒** 「社会福祉援助技術」選択者 16名
- 3 **指導者（教諭・外部講師等）** 非常勤講師
- 4 **実施内容**

取組事例1 ○1グループ8人ずつで、講師と手話で交流  
○新しく覚えた単語などを発表  
○講師からの講評を聞く  
○授業に関する感想文を書く

取組事例2 ○指文字、50音、数字を覚える  
○イラストをもとに、自分の一日を手話により表現する  
○手話映像を見る（「何時に何をした？」）  
○手話単語の確認

- 5 **学習評価**

コミュニケーションの一つとして、手話で自分の一日を表現できる。

- 6 **その他 <成果>**

手話で簡単なコミュニケーションが図れるようになった。  
社会福祉（手話）についての興味・関心が高まった。

単元（題材）目標：指文字と手話による簡単な会話の学習・練習を通じて、聴覚障害者とのコミュニケーションの取り方を学ぶとともに、障害者福祉の在り方を考える機会とする。

- 1 **実施時期** 通年の授業時。導入部分の5～10分間に実施
- 2 **対象生徒** 「社会福祉基礎」選択者 58名(全年次)
- 3 **指導者（教諭・外部講師等）** 福祉科教諭
- 4 **実施内容**  
50音の指文字の学習や手話による会話練習を行う。会話については、授業者が見本を示し、生徒個人の練習、ペアによる会話練習を行う。
- 5 **学習評価**  
各生徒の取組を「関心・意欲・態度」と「技能」の観点で評価する。
- 6 **その他 <成果>**  
授業の開始と終了は手話で行っており、生徒が手話に関する興味・関心を深めるだけでなく、生活の中で身近な言語になりつつある。

単元（題材）目標：聴覚障害者の方々が、災害時に必要となる手話を学ぶ。

- 1 **実施時期** 年間1回
- 2 **対象生徒** 1年生選択者 20人
- 3 **指導者（教諭・外部講師等）** 茅ヶ崎市視聴覚障害者協会
- 4 **実施内容**
  - ・DVD「音のない3.11」視聴
  - ・災害時において聴覚障害者へ配慮することを学習する。
  - ・手話（あいさつや災害時に役立つ単語等）を学習する。
- 5 **学習評価**  
取組状況（授業での姿勢）
- 6 **その他 <成果>**  
聴覚障害者が災害時に困ることや、聴覚障害者へ配慮することを学習することとおして、コミュニケーション支援の大切さを理解することができた。

単元(題材)目標：<共生社会における家庭や地域>

家庭と地域との関わりについて理解させ、高齢者や障害のある人々が共に支え合って生きることの重要性を認識し、家庭や地域及び社会の一員として主体的に行動することの意義について考えさせる。

1 実施時期 年間2回

2 対象生徒 「家庭総合」履修者 160名

3 指導者(教諭・外部講師等) 家庭科担当教諭

※自己研修により、手話の先生から学んだことを授業に生かしている。

4 実施内容

手話の紹介 ○ 「手話」と「指文字」の違い ○ 数をたずねる

○ 手話のあいさつ ○ 一週間の生活

手話ソング 「LOVE LOVE LOVE」・「夜空ノムコウ」

5 学習評価

手話を通して共生社会について、理解することができる。

6 その他 <成果>

在学中に、必ず全生徒が手話を体験する機会を設けることにより、簡単な手話の表現や意味について学び、手話に興味を持つことができた。

単元(題材)目標：手話の基礎知識を学ぶことを通して、聴覚障害者とのコミュニケーションを図る。

1 実施時期 年2回 (1授業につき1回、本授業は2展開)

2 対象生徒 1年次生 20人、2年次生 18人

3 指導者(教諭・外部講師等) 秦野市聴覚障害者協会からの講師派遣

4 実施内容

・手話を用いた挨拶

・自己紹介

5 学習評価

○ 手話講演会に積極的な姿勢で参加している。

○ 手話で自己紹介ができる。

○ レポート

6 その他 <成果>

手話講師との交流を通し、手話の基礎知識、聴覚障害者の生活についての理解が深まった。

単元（題材）目標：共生社会の実現という福祉の理念に沿って、日常会話を中心に手話をとおして聴覚障害者とコミュニケーションを図る。

- 1 実施時期 6、7月の5回
- 2 対象生徒 1、2年生選択者 15人
- 3 指導者（教諭・外部講師等） 秦野手話サークル秦の会
- 4 実施内容
  - ・「秦野総合高等学校手話教室」をテキストとして、会話、名前の表現方法、あいさつ、重要な単語、指文字などを習得し、手話で会話をする。
  - ・聴覚障害についての基本的な知識を学ぶ。
- 5 学習評価
 

授業への出席及び授業中における、取り組み姿勢を中心に「関心・意欲・態度」を、講師及び生徒同士の手話での会話を中心に「知識・理解」を、それぞれ5段階で数値化し、両者を総合して評価する。
- 6 その他 <成果>
 

聴覚障害についての理解と聴覚障害者の日常生活の理解が深まった。

単元（題材）目標：手話の知識や技術を身に付け、手話による基礎的なコミュニケーションが図れるようにする。  
身に付けた基礎知識をさらに高め、自己紹介ができるだけでなく、ろう者の自己紹介が読み取れるようにする。

- 1 実施時期 1学年・・・1、3学期 2学年・・・2学期 3学年・・・1学期
- 2 対象生徒 福祉教養コース 約113名
- 3 指導者（教諭・外部講師等） 福祉科教諭、手話特別講師、神奈川県認定手話通訳者
- 4 実施内容
  - 1年次 挨拶、自己紹介などの基本、ろうの講師との交流会
  - 2年次 1年次の復習と、さらに具体的な手話の習得、ろうの講師との交流会
  - 3年次 手話の表現技能を活用し、簡単な日常会話を学ぶ。  
卒業研究で、聴覚障害に関する研究を行う生徒もある。
- 5 学習評価
 

手話学習について、資料や情報を適切に活用し、基礎的、基本的な技術を身に付け、福祉に関する諸活動に対応できることを目指し、その技術を適切に活用できている。
- 6 その他 <成果>
 

3年間にわたり、継続的に手話の学習を行うことで、挨拶や自己紹介などの基本的な手話が行えるようになった。また、手話交流会を通して、聴覚障害者と会話することで、手話だけでなく、非言語的コミュニケーションの必要性にも気付くことができる。  
3年生の中には、夏季休業中の介護実習において、施設利用者と手話で会話することができたという生徒もあり、継続的な学習によって実生活でも手話を活用できる生徒がいることが分かった。

単元（題材）目標：手話言語条例について学び、聴覚障害者だけでなく手話通訳者の現状などについて知るとともに、手話言語とはどのようなものなのか等を、実践を交えて体験し、手話に対する興味・関心を高める。

1 実施時期 2月上旬（4時間扱い） 2 対象生徒 1・2学年選択者 16名

3 指導者（教諭・外部講師等） 地域の手話ボランティア・ろう者

4 実施内容

手話でのあいさつ、自己紹介について学び、手話コーラスを練習し、また、手話言語条例について学んだ。聴覚障害の方の生活について実演を交えて紹介してもらい、生徒たちが行った手話が、聴覚障害者である講師に伝わるかを、クイズ形式で体験した。学習発表会において、手話についてポスター発表並びに簡単な手話を全校生徒の前で実演、紹介した。



5 学習評価

指導者との会話を通して、手話を普段使っている音声言語と同じように「会話」する「言語」なのだということを、実感することができる。

6 その他（生徒の感想）

- ・言葉を尊く感じるのを自覚しました。手話をきっかけに言葉と手話を一層大切にしたいと思います。
- ・手話通訳の資格を取るのはとても大変そうで、難しそうだけど、聞こえない人のためにも（手話通訳者に）なってみたいと思いました。
- ・中学の総合学習で手話をやって、「あ！習ったものがこんな風に伝わるんだ。」と改めて思いました。「こんな風に表現して伝えていく」という点で新しい刺激を受けることができました。

単元（題材）目標：社会福祉に関する基礎的な知識を習得させ、現代社会における社会福祉の意義や役割を理解させるとともに、社会福祉の向上を図る能力と態度を育てる。

1 実施時期 年間を通して断続的に 11 時間

2 対象生徒 1 学年必修選択 選択者 72 人

3 指導者（教諭・外部講師等） 神奈川県手話通訳者、足柄上郡ろうあ福祉協会

4 実施内容

外部講師（ろう者の方）から手話による自己紹介（あいさつ・住所・家族・学校・数字等）等の手話の実技を学ぶとともに、さまざまな体験を伺い、コミュニケーションをとる。

5 学習評価

レポート・実技テスト等から、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「知識・理解」の観点で評価する。

6 その他 <成果>

手話による基本的なあいさつや会話ができ、生徒が積極的に自己表現する意欲を高めた。また、外部講師による手話の授業では、生きた手話を学ぶことができ、直接コミュニケーションを図る中で、聴覚障害の方に対する理解を深めることができた。

単元（題材）目標：社会福祉の意義を基に、対人援助の基本である社会福祉援助技術、レクリエーション、コミュニケーション等に関する知識と技術を習得し、社会福祉援助活動に必要な能力と態度を育成する。

- 1 **実施時期** 年間を通じて断続的に 11 時間
- 2 **対象生徒** 2 学年自由選択 選択者 20 人
- 3 **指導者（教諭・外部講師等）** 神奈川県手話通訳者、足柄上郡ろうあ福祉協会、教科担当者
- 4 **実施内容**  
高齢者福祉施設・障害者施設・福祉団体の方々のお話を伺い、生活支援の知識を学び、実際にそれらの施設を訪問する。「手話講座」聴覚障害者を招いて講演会を行う。
- 5 **学習評価**  
レポート提出・実践の完成度等から、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「知識・理解」の観点で評価する。
- 6 **その他 <成果>**  
手話講座講演会を通して、今までの体験や福祉機器の利用など、聴覚障害に対する理解や、手話に対する認識が深まった。

単元（題材）目標：社会福祉分野の現状 障害者の福祉  
社会福祉の各分野に対する関心を持ち、各分野の現状と課題を意欲的に追求し考察し、表現する能力を身に付ける。

- 1 **実施時期** 年間2時間
- 2 **対象生徒** 3 学年 15 名
- 3 **指導者（教諭・外部講師等）** 地域のボランティア団体 手話サークル「かたつむり」職員
- 4 **実施内容**
  - (1) 導入「誰が聞こえない人か、わかりますか？」  
サークルの方々（聞こえる人、聞こえない人両方が複数名ずつ）に、教室の前方に並んでいただき、聞こえないと思う人のところで手を挙げてもらう。
  - (2) 自己紹介（手話を交えて、手話サークルの方）
  - (3) みんなも手話で自己紹介をしてみよう（名前・好きな教科・苦手な教科）
  - (4) 果物や野菜を手話で表現してみよう
  - (5) 手話で会話をしてみよう  
（お名前は何ですか？好きな食べ物は何ですか？好きな教科は何ですか？）
  - (6) 手話で歌を歌ってみよう（セカイノオワリ 「RPG」）
- 5 **学習評価**  
手話に取り組むことにより、聴覚障害者の福祉について理解することができる。  
また手話で、表現することができる。簡単な手話による会話ができる。
- 6 **その他 <成果>**  
生徒は、他の障害者に比べて聴覚障害者であることが、分かりづらいと実感できた。どう援助したらよいのか、また、援助を必要としているのかが、実際の生活場面では分かりづらいと感じることができた。手話を習うことは、とても楽しかったようで、手話サークルに参加したいと、かなり積極的になった生徒もいた。また、普段何気なくしている会話が、手話になることで、表現することの大変さも味わった。手話サークルの方も丁寧に指導してくださり、とても和やかなうちに歌まで進むことができた。生徒は歌も手話でできることに、とても感動していた。音楽は聴覚に障害があっても伝えることができると感想文に書いてあり、十分な成果が挙げられた。



単元（題材）目標：聴覚障害の方との、コミュニケーションについて考える。

- 1 **実施時期** 年間2時間
- 2 **対象生徒** 2学年選択者 38名
- 3 **指導者（教諭・外部講師等）** 社会福祉協議会職員
- 4 **実施内容**
  - ・耳の構造と音の伝わり方
  - ・聴覚障害の種類
  - ・聴覚障害者の呼称イメージ
  - ・難聴の程度
  - ・聴覚障害者の生活（DVD視聴）
  - ・耳で聞くことの役割
  - ・聴覚障害者が感じる日常生活での不便さ
  - ・コミュニケーションの手段
  - ・指文字、手話表現 あいさつ、自己紹介 など
- 5 **学習評価**  
授業後に手話で自己紹介をさせ、「関心・意欲・態度」と「思考・判断・表現」の観点で評価する。
- 6 **その他 <成果>**  
手話によるあいさつや自己紹介を学ぶことができた。

テーマ（活動の目的）：基本的な手話を学習するとともに、聴覚障害の理解を深める。

- 1 **実施時期** 年間を通じて継続的に実施
- 2 **対象生徒** 社会福祉部 21名
- 3 **実施内容**
  - ・社会福祉施設訪問時や、学校行事における手話通訳、手話ソングの発表
  - ・近隣の小学校や特別支援学校、地域の催し等における手話通訳、手話ソングの発表
  - ・「高校生ボランティア大会」への参加
  - ・手話スピーチコンテストへの参加（平成26年度は全国第3位）
- 4 **連携（外部指導者）等**  
部活動インストラクター（手話通訳士）
- 5 **その他 <成果>**



高校総合文化祭の開会式、閉会式において、県知事や教育委員の挨拶などの手話通訳を実施するなど、高文連での活動を行い、また、大会やコンテスト等で好成績を収める活動を実践している。

テーマ（活動の目的）：多様なコミュニケーションの在り方を学び、手話への理解を深める。手話のスキルを高め、ろう者の方とのコミュニケーションを図る。手話ソングを通し、手話の社会的認知度を高めていく。

- 1 実施時期 週4回
- 2 対象生徒 手話部 35人
- 3 実施内容

手話による日常会話及び手話ソングの練習

- 4 連携（外部指導者）等

本校インストラクター

- 5 その他 <成果>

手話ソングの取組を通して、手話を身近に感じ、手話表現において表現することの難しさや、重要性に、生徒達が改めて気付くことができた。

平成27年度「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」の予選審査会を関東ブロック1位で通過し、鳥取県で行われる本選に出場した。



テーマ（活動の目的）：手話を通して、表現することの素晴らしさを学び、その中で、ろう者とのコミュニケーションについて考え、手話への理解を深める。

- 1 実施時期 毎週月、金曜日
- 2 対象生徒 ボランティア部 13名
- 3 実施内容

- ・入学式での手話による校歌の紹介
- ・手話スピーチコンテストへの参加
- ・手話パフォーマンス甲子園への応募

平成26年度から始まった手話パフォーマンス甲子園に第1回から応募し、部員が協力し、工夫を重ねて作品を作り上げた。

- 4 連携（外部指導者）等

部活動インストラクター

- 5 その他 <成果>

日々の練習に熱心に取り組み、手話スピーチコンテストでは一次審査を通過する生徒もいた。コンテストや大会等に参加することにより、手話の高度な技術が身に付くだけでなく、表現することの難しさや、素晴らしさを生徒自身が感じ取ることができ、前向きな活動となっている。

テーマ（活動の目的）：基本的な手話を学習するとともに、聴覚障害の理解を深める。

- 1 実施時期 年間1回 1時間
- 2 対象生徒 チアリーディング部 25名

3 実施内容

- ・校内見学（川崎市立ろう学校）
- ・手話体験

4 連携（外部指導者）等

川崎市立ろう学校職員

5 その他 <成果>

聴覚障害者の幼稚園児から高校生までが通うろう学校を訪問し、学習環境を見学した。学習や生活する上での困難さを理解することができ、また、基本的な手話を習得した。

テーマ（活動の目的）：活動を通して、聴覚障害についての理解を深め、手話をより身近なものとする。手話コースを通して、高校生や外部の方々の手話に興味を持ってもらえるよう活動を行う。

- 1 実施時期 年間を通じて70回
- 2 対象生徒 手話コミュニケーション部 25名

3 実施内容

手話の会話文、手話通訳、手話ソングの実践を通して活動した。また、ボランティア活動等で手話ソングの発表を行った。

4 連携（外部指導者）等

非常勤職員1名、常勤職員1名

5 その他 <成果>

発表を通して、聴覚障害の更なる理解や、手話に対する興味・関心が高まった。

テーマ（活動の目的）：手話を通して、地域と触れ合おう。

- 1 **実施時期** 入学式・文化祭・地域夏祭り（イベント）  
老人介護施設訪問時（年間を通して12回程度）等
- 2 **対象生徒** ボランティア部 30名
- 3 **実施内容**  
入学式において有志の生徒が、手話による校歌紹介を行った。部活動紹介や文化祭、地域夏祭り、近隣の老人介護施設においても、手話パフォーマンスを披露し、簡単な手話を通して交流を深めた。
- 4 **連携（外部指導者）等**  
手話辞典を活用し、顧問とともに取り組んでいる。
- 5 **その他 <成果>**  
手話パフォーマンス等の活動は、新入生やその保護者、文化祭来場者、地域の方々、施設の方々が手話に関心を持つ良い機会となっている。なかでも、文化祭での発表の際、聴覚に障害を持つ他校の生徒と保護者から、感謝の言葉をいただいたことは、生徒たちの大きな喜びとなった。また、継続的に行われている老人介護施設訪問は、入居者からも大変好評で、生徒たちは異世代間でのコミュニケーションや、自己表現することの大切さに気付き、より積極的に活動へ参加するようになった。

テーマ（活動の目的）：聴覚障害者の理解と、手話を通して聴覚障害者と触れ合う。

- 1 **実施時期** 月に1回
- 2 **対象生徒** ボランティア研究部 5名
- 3 **実施内容**
  - ・聴覚障害者による手話実習
  - ・手話による聴覚障害者への理解や聴覚障害者との触れ合いについての講義
- 4 **連携（外部指導者）等**  
大学生ボランティアによる指導
- 5 **その他 <成果>**  
手話の日常会話を中心とした講義を通じて、聴覚障害の理解と聴覚障害者の日常生活の理解が深まった。

## 大井高等学校 ボランティア部

テーマ（活動の目的）：手話の習得により、聴覚障害に対する理解を深める。「地域密着型」の部活動を目指し、活動の中で出会った方々や、地域の皆様からいただいた、感謝の言葉や笑顔を何よりの喜びに活動している。

- 1 **実施時期** 週2回 2時間
- 2 **対象生徒** ボランティア部 15人
- 3 **実施内容** 地域の様々なイベントに参加し、ボランティア活動を行っている。  
平成26年度はその活発な活動の中で、10回以上の催しに招待され、手話ダンスや手話ソングを披露している。
- 4 **連携（外部指導者）等**  
神奈川県手話通訳者
- 5 **その他 <成果>**  
手話ダンス・手話ソングの発表は、地域の方々にとっても好評で、依頼数は年々増加している。それを励みに、新たな手話ダンス・ソングへ挑戦するなど、部活動の活性化の原動力となっている。

## 横浜緑園総合高等学校 「入学式及び卒業式」

テーマ（活動の目的）：授業で学んだ手話を活用し、入学式及び卒業式において、生徒による手話通訳が実施できるようにする。全校生徒が手話に触れる機会を持つ。

- 1 **実施時期** 年2回
- 2 **対象生徒** 学校設定科目「手話Ⅰ」選択者、学校設定科目「手話Ⅱ」選択者、  
入学式・卒業式に出席した生徒
- 3 **実施内容**
  - ・入学式において、「手話Ⅰ」の授業を受けた3名の生徒が、ステージ上で「生徒会長の言葉」の手話通訳を実施した。
  - ・卒業式において、「手話Ⅱ」の授業を受けた3名の生徒が、ステージ上で「卒業生の言葉」の手話通訳を実施した。



卒業式での手話通訳の様子

- 4 **その他 <成果>**
  - ・手話を学習した生徒が、その成果を披露する機会となり、生徒の学習意欲を高めることができた。
  - ・全校生徒が手話に触れる機会を持つことができた。

その他  
1

## 川崎高等学校 「公開セミナー」

テーマ（目的）：地域の方と共に手話を学び活用する。

- 1 **実施時期** 10月～12月毎週土曜日実施 計35時間
- 2 **対象生徒** 15名（地域の方々と1～3年生の生徒選択者）
- 3 **連携（外部指導者）等**  
外部講師（聴覚障害当事者）
- 4 **実施内容**  
手話の初歩から発展まで、川崎高校独自の公開講座として実施
  - ・自己紹介～あいさつ、家族、趣味、仕事の紹介～
  - ・数字や日時（誕生日等）表現の練習
  - ・地図を活用しながら自宅の場所を手話で紹介
  - ・手話の文法（助詞が入るとき等）、敬意を表す態度などを学習
- 5 **その他 <成果>**  
手作りの教材などを活用することにより、生徒が手話を覚え、活用しようという意識を持つようなセミナーとなった。

その他  
2

## 深沢高等学校 「神奈川県聴覚障害者福祉センター見学」

テーマ（目的）：施設の見学・説明を通し、聴覚障害者への理解を深め、ボランティア活動に対する意識を高める。

- 1 **実施時期** 年1回（5月実施）
- 2 **対象生徒** ボランティア委員 12名
- 3 **連携（外部指導者等）** 施設職員
- 4 **実施内容**  
施設の見学・説明を通し、聴覚障害者への理解を深めるとともに、手話に触れること。
- 5 **その他 <成果>**  
聴覚障害者を支援することを目的とした施設を見学することにより、聴覚障害者が、地域社会において自立した生活を営むことができるよう支援するための支援の重要性を生徒たちが感じる事ができた。

テーマ（目的）：手話に興味を持つ生徒が増え、聴覚障害の方と会話ができるようになることをとおして、手話をはじめとした福祉への関心が深まることを目的としている。

1 **実施時期** 年間を通して月2回、1回1時間

2 **対象生徒** 生徒30名 教職員3名

3 **連携（外部指導者）等**

聴覚障害の卒業生を講師として招き、また、本校の生徒の保護者で聴覚障害の方に来ていただき、講話をしていただく予定。

4 **実施内容**

毎回、手作りのプリントを基に、手話の単語、会話練習、読み取り練習、指文字、また、ろう文化について学んでいる。4～6月には、文化祭発表に向けて手話歌の練習。6月の文化祭では体育館ステージで手話歌を30名の生徒が発表した。

5 **その他 <成果>**

「手話交流会」は聴覚障害の生徒が中心となって始まった。メンバーの中には福祉に興味を持ち、手話を学んだことを将来に生かすため、福祉系や教育系の進学を考える生徒が多い。また、手話交流会のメンバーが卒業後、大学で手話サークルに所属したり、聴覚障害の方と積極的に関わったりしている。

印	刷	平成27年11月24日
発	行	平成27年11月24日
編	集	神奈川県教育委員会教育局指導部
者		高校教育課長 岡野 親
発	行	神奈川県教育委員会
者		〒231-8509 横浜市中区日本大通33
		TEL (045)210-1111 内線8258～66

